

DEC 2013

Vol.

11

KIZUNA.11

近畿大学医学部 附属病院 広報誌

きずな



理 念

患者本位の開かれた病院として、
安全で質の高い先進医療を提供します。

基 本 方 針

1. 特定機能病院として、医学医療の進歩に関与し、社会に貢献します。
2. 教育病院として、人に愛され、信頼され、尊敬される医療人を育成します。
3. 南大阪における基幹病院として地域医療に貢献します。
4. 働きがいのある病院として、チーム医療と環境整備に努力します。

発刊にあたって

近畿大学医学部附属病院 病院長 工藤 正俊



近畿大学医学部附属病院広報誌「きずな」第十一号をお届けいたします。
さて9月7日未明に2020年のオリンピックの開催地が東京に決まり、日本中が興奮の渦に包まれました。久しぶりに日本の国民が心をひとつにして喜びを分かち合った日だと思います。とりわけパラリンピック選手の佐藤 真海選手のプレゼンテーションは心に訴えるものがあり、骨肉腫で片足を失いながらもパラリンピックで3大会連続出場し、あのような明るい笑顔で完璧なプレゼンテーションをする姿に心を打たれた方も多いと思います。また滝川クリステルさんが大変流暢なフランス語で「お・も・て・な・し」の心を日本人は持っているといったことを紹介されたこともオリンピックが東京に決まったひとつの大きな要因ではなかったかと思います。我々医療を担う者としても病氣と闘う人を治療してあのような明るい笑顔になれるように誠心誠意、診療の質を向上させ、また、外来患者さまや入院患者さまに「おもてなし」の気持ちをもって治療して行きたいと職員一同気持ちを引き締めているところであります。本号でも院内の様々な部署の活動を紹介しておりますので、ご参考にしていただきたいと思います。この冊子が、皆さまのお役に立てることを祈念致しまして第十一号のご挨拶とさせていただきます。

C o n t e n t s

発刊にあたって	P.01
最新情報	P.02
特集「注意を要する高血圧 ①冬の血圧上昇」	P.05
特集「注意を要する高血圧 ②二次性高血圧」	P.06
医療安全だより	P.07
各診療科の紹介（小児科）	P.09
各診療科の紹介（放射線診断科）	P.10
基礎系教室の紹介（公衆衛生学）	P.11
検査部だより	P.12
看護部だより	P.13
ほいくだより	P.15
卒業生の今	P.17
関連病院だより	P.18
大阪狭山市の名所めぐり〈亀の甲〉	P.19
さやま検定	P.20
患者支援センターのご案内	P.21
各診療科のご案内	P.22

《受診される皆さまの権利》

近畿大学医学部附属病院では受診される皆さまが以下に掲げる権利を有することを確認し、尊重します。

1. 人間としての尊厳を尊重されながら医療を受ける権利
2. 病院全機能をあげて最善で安全な医療を受ける権利
3. 自らの心身の状態を理解するために当院から必要な情報を得る権利
4. 当院から必要十分な情報の説明を得た上で、自己の自由な意志に基づいて医療行為を決定する権利
5. プライバシーの保護を受ける権利
6. 必要に応じ、医療費用の内容に関する情報を受ける権利

《臨床倫理》

1. 医療を受ける人々の権利を最大限尊重するとともに、医療を受ける人々の最善の利益を追求する医療を提供する。
2. 医療を受ける人々の信条や価値観に十分配慮する。
3. 医療内容、治療の選択について詳しく説明し、医療を受ける人々の自由な意思に基づいて医療行為を決定する権利を尊重する。
4. 倫理的な問題を含むと考えられる医療行為については、法令やガイドラインを遵守するとともに、院内において十分審議検討を行う。

■ 最新情報

近畿大学医学部附属病院救急災害センター 2013年12月1日運用開始いたします

当院では、1982年（昭和57年）に救命救急センターを開設以来、大阪南部の救急医療の核を担ってまいりました。外傷を中心とする重症のみならず、近年充実が求められる心臓疾患、脳卒中などの重要疾患にも対応すべく計画いたしました。

建物の構成

1階は正門側に救急車専用搬入口があります。すべての救急車はこちらに到着。入口直近にあり4ベッドから構成される初療室にて治療が開始されます。また、CT、血管造影などの画像診断装置と隣接する処置室を配置し、高次の救急に対応します。翌朝までの入院が必要な患者さまに対応する目的でONB病棟7床も設置しました。

救急車搬送以外の入口は本館側にあり、かかりつけ患者さまの時間外の救急に対応します。感染症にも対応したものも含めて6診察室を配置しました。ただし、救急医療の本来の役割である、重症の救急患者さまへの迅速な対応を果たすべく、緊急受診の必要性がないと判断した場合、5,250円（税込）を時間外選定療養費として自己負担いただきます。（初診の場合は別途5,250円（税込）が加算されます。）

2階にはコーヒーショップ「ドトール®」を設置。本館の正面玄関に隣接している好立地ですので、外来診察の時間待ちなどにぜひご利用ください。

3階は急性期病棟（ACW）30床。脳卒中セン

ターとして、脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血などに対応するSCU（ストローク・ケア・ユニット）12床と、救急の急性期を脱した患者さまを収容するACU（アキュート・ケア・ユニット）18床で構成されます。

4階は救命救急センター（CCMC）30床。3次救命救急センター24床と狭心症や心筋梗塞など心臓血管系の重症患者を対象とする心臓血管センター・CCU（カーディアック・ケア・ユニット）6床で構成されます。重症患者さまの看護に対応するため、365日24時間2：1（患者：看護師）の比率で看護師が勤務しております。

5階は災害医療に対応するエリアとなっております。災害時に災害対策本部としての機能を果たす会議室、災害医療用備蓄倉庫、災害医療を支えるスタッフのラウンジなどを設置しております。



建物の特徴と概要

建屋5階部分や、東側壁面に設置した太陽光パネルにより、クリーンエネルギーである太陽光発電を採用。環境への配慮と省エネを図ります。クール（ヒート）トレンチにより地中熱によって夏は冷却、冬は温められた外気を取り入れ空調負荷を削減します。

設備の配管類は外部パイプシャフト方式とし、メンテナンスや将来の更新に備えた計画とし、長寿命化を図ります。

地上5階建て 免震構造 10,235㎡

鉄筋コンクリート造

一部鉄骨 鉄筋コンクリート造／鉄骨造

病床数：67床

(CCMC24、CCU6、SCU12、ACU18、ONB7)

外来診察室6室、点滴ベッド5ベッド

地域に求められる、高度でタイムリーな救急医療にお応えするべく、スタッフ一同協力体制のもと、全力で取り組んでまいり所存です。大きく変わろうとしている近畿大学医学部附属病院の救急医療体制につきまして、大いにご注目ください。

(文責：医事管理課 救急担当 田花 永久)



救急車専用搬入口



64列CTと一般撮影装置



1F ONB病棟 7床



救急受付、お薬渡し口

最新情報



3F 急性期病棟 30床



4F 救命救急センター 30床



救命救急センターは365日24時間 2:1 看護を実施



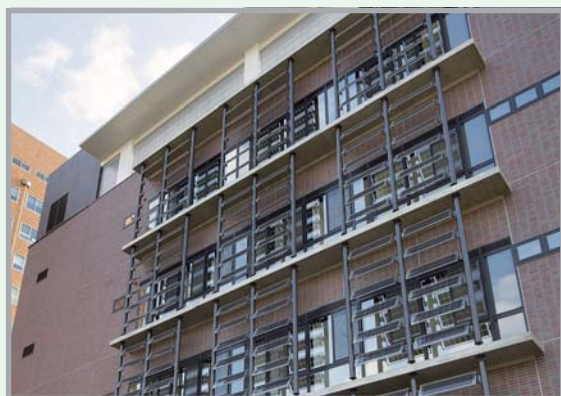
5F 災害対策本部機能を果たす会議室
情報通信設備（衛星電話）を設置



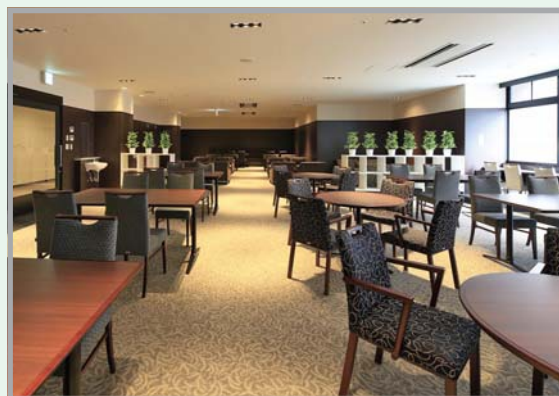
災害用備蓄倉庫
災害時に必要な食料・医薬品・災害用ベッド等を備えます



モダンな建築を象徴するシースルーエレベーター



太陽光発電パネルを設置



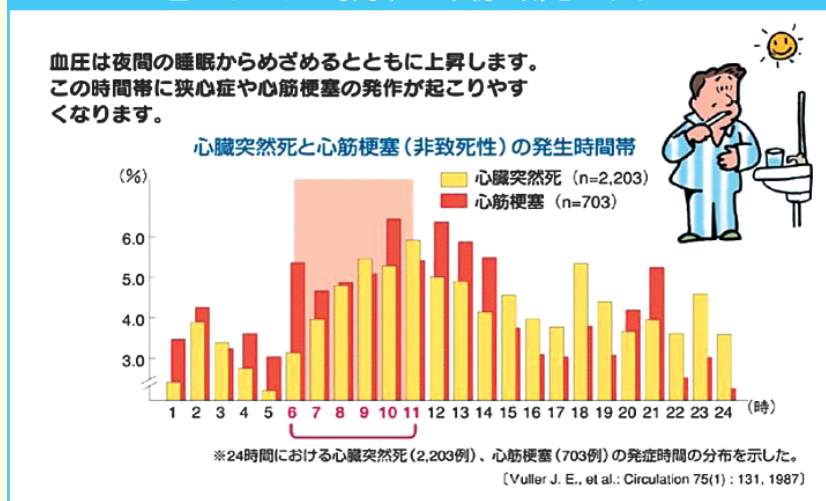
5F シックな風合いでスタッフを癒やすラウンジ

■ 特集「注意を要する高血圧 ①冬の血圧上昇」

寒冷が血圧を上げ、冬季に血圧が高くなることは良く知られています。したがって、高血圧症や血圧が高めの人は寒い季節に対策や警戒が必要です。実際、高血圧と関連の深い脳心血管病は冬季に発症率が増加し、暖房や防寒が不十分な場合ほど死亡率が高くなることが知られています。そのため、高血圧患者さまは冬季の暖房などに配慮をするべきですが、特に、日本では外国に比べてトイレや浴室、脱衣所などの暖房が見落とされやすいので注意が必要です。

身体が寒気に触れると、体温の発散を防ごうとして血管が収縮することで、血圧が上昇します。また、寒冷によって交感神経（生命活動を活発にする働きをする神経）が刺激されることも血圧上昇の原因となります。そこで、冬に血圧を上昇させないためには、体を感じる温度差を小さくすることが重要です。具体的には、①朝起床するときに部屋が暖まってから着替えるようにする、②洗顔もぬるま湯を使用して温度差を和らげる、③（温かい車内から外に出る場合を含めて）外出の際には防寒に努めるとともに血圧を上昇させる急な動き（電車やバスに乗るためにあわてて走ったり、階段を駆け上がるなど）を避ける、④脱衣所やトイレなど居室以外の温度にも気をつける、などです。特に、血圧は早朝に上昇し、この時間帯に脳心血管疾患の発症が多くなります（図）。したがって、朝の活動を始めてから2時間以内は特に注意をする必要があり、慌てないように余裕をもった行動をすることがポイントになります。また、喫煙は血管を収縮させ血圧を上昇させます。朝起きがけに喫煙すると、喫煙中に脳卒中や心筋梗塞を起こす危険が増大しますので、避けるべきです。

図. あぶない時間帯 —早朝に気をつける—



血圧が上昇しやすく注意してもらいたい状況を表に示しますが、温かい室内や車内からちょっとだけ外（ベランダ、庭や駐車場）に出る時に、防寒が不十分になることが危険です。面倒でも上着やマフラーなどで防寒を怠らないようにしましょう。冬期の血圧上昇が著明な高血圧患者さまでは、季節ごとに降圧薬を変更することが望ましい場合もあります。ご心配な方は、主治医の先生に相談してみてください。

表. 冬に血圧が上昇しやすい状況

- ・朝起きて布団を出るとき
- ・暖かい部屋から上着をはおらずに外に出るとき
- ・暖房の効いた車から降りて、外を歩くとき
- ・入浴のために脱衣所で服を脱ぐとき
- ・夜中に目が覚めてトイレに行くとき
- ・急に走り出すとき
- ・（特に外で）喫煙するとき

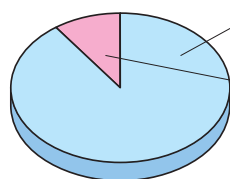
（文責：腎臓内科 大西 佐代子、有馬 秀二）

■ 特集「注意を要する高血圧 ②二次性高血圧」

現在、日本の高血圧人口は約4000万人と推測され、50歳以上の約半数は高血圧を呈しています。このように日本人にとって高血圧は非常にありふれた疾患ではありますが、高血圧患者の約10%には高血圧をきたす原因疾患が潜在しており、このような高血圧を二次性高血圧と呼びます（図）。主な二次性高血圧を表1に示します。二次性高血圧の頻度は決して高くありませんが（それでも4000万人の10%なら400万人の患者さまが日本に居ることになります）、原因によってはそれを根治させることで高血圧が完全に治癒し得ること、また高血圧だけを治療していても原疾患の進行を抑制し得ないことから、的確な診断と治療が必要とされます。一方、二次性高血圧を否定された高血圧患者は本態性高血圧と診断され、治療としては「血圧を低下させれば良い」ということになるのです。

図. 高血圧の種類

高血圧は、**本態性高血圧**と**二次性高血圧**に分けられます。



本態性高血圧

全体の約90% 遺伝と環境による。

二次性高血圧

全体の約10% 他の病気が原因。
(腎疾患やホルモン異常など)

表1. 主な二次性高血圧

- ・腎実質性高血圧症（腎臓病による高血圧）
- ・腎血管性高血圧症（腎臓の血流低下を原因とする高血圧）
- ・ホルモン分泌異常による内分泌性高血圧
(原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫 など)
- ・睡眠時無呼吸症候群
- ・甲状腺疾患
- ・その他（血圧を上昇させる薬剤による高血圧 など）

どのような時に二次性高血圧が疑われるのでしょうか？ まず、発症や経過が通常の本態性高血圧としては典型的でない場合です。一般に、本態性高血圧では家族歴が濃厚であり、血圧は20歳代からやや高め、30代、40代となって段々と高くなっていくのが普通です。したがって、若いときに発症する重症の高血圧（家族歴がない場合は、特に疑わしい）や、逆に60歳を過ぎてから高血圧が発症してくる場合には二次性高血圧の可能性が高いと考えられます。数週間以内に急激に血圧が上昇してくる場合にも必ず重大な原因があると考えて、検索する必要があります。また、加齢とともに大動脈が硬くなって収縮期血圧（いわゆる上の血圧）は上昇しやすくなりますが、拡張期血圧（いわゆる下の血圧）は徐々に低下するのが一般的です。したがって、高齢者で拡張期血圧が高い場合にも二次性高血圧を疑う必要があります。その他、通常の降圧薬は内服開始後1～2週間かけて少しずつ血圧を低下させますので、処方された降圧薬が全く効かない場合や、逆に著効する（内服開始した翌日には血圧が下がるなど）場合にも二次性高血圧が疑われます。二次性高血圧を疑う所見を表2に示します。この中で何か思い当たることがある場合には、主治医の先生に相談してみてください。

表2. 二次性高血圧を疑うとき

- ・若年発症、特に家族歴のないとき
- ・急速な高血圧の発症
- ・血圧コントロールが困難なとき、
または、それまで良好だった血圧コントロールが急に困難となったとき
- ・60歳を超えてから発症した高血圧、特に拡張期高血圧
- ・拡張期血圧 $\geq 130\text{mmHg}$ などの著明な血圧高値
- ・降圧薬が全く効かないまたは著効するとき
- ・以下のような特徴的な症状や身体及び検査所見を呈するとき
 - ・比較的急な体重増加、肥満
 - ・夜間尿、血尿、浮腫など（腎臓病が疑われる）
 - ・睡眠時のいびきと無呼吸、昼間の眠気（睡眠時無呼吸症候群が疑われる）
 - ・解熱鎮痛薬や漢方薬などの服用
 - ・脱力感、多尿
 - ・発汗・頭痛を伴う頭痛

（文責：腎臓内科 井上 裕紀、有馬 秀二）

■ 医療安全だより

こんにちは！

医療安全対策室便りです。

我々医療安全対策室のお仕事は、近畿大学医学部附属病院の医療事故を減らし、病院として患者さまにより良い医療を提供することが最大の目標です。

ですから仕事は、医療安全意識の院内での啓発、医療安全ルール作り、パトロール作業などなど多岐に渡りますが、今日は我々医療安全チームの少し趣の異なった活動について紹介します。

一つ目は、南大阪医療安全ネットワーク活動です。そもそも、近隣の病院の職員さんから相談を受けたことが発端ですが、約2年の準備期間をかけて2013年8月31日に立ち上げました。目的は病院の規模の大小に拘らず医療安全のノウハウを共有し、南大阪地域（堺二次医療圏、南河内二次医療圏）地域での医療安全、患者安全の意識、知識の向上、ひいてはこの地域でより安心して患者さまに医療機関を受診できるようになっていたくのがゴールです。まだまだ出来たてホヤホヤ

ですが、メールでの情報交換、定期的な研修、意見交換会などから活動を開始します。どうぞ期待ください。

二つ目は、患者さまに医療安全に参加、ご協力いただく医療安全サポーター活動の試みです。チーム医療の中では、患者さまも我々医療チームの一員です。もちろん、医療行為の決定、実行に当たっては、患者さまの意見が不可欠です。そこで、患者さまの視点から、我々の医療安全活動を前向きにサポートしていただきたいというのが、我々の願いです。お願いする内容は、スタッフとの意見交換、研修会活動のお手伝い、院内パトロールへの参加など、参加していただける皆さまに合わせて考えて行きたいと思っています。

この二つの活動はいずれも、我々の医療安全、患者安全活動が決して近畿大学医学部附属病院スタッフの中だけに留まらず、縦横に沁み渡って欲しいという切なる思いに他なりません。

どうぞ、今後とも温かくお見守り下さい。

（文責：医療安全対策室 室長 辰巳 陽一）



医療安全サポーター募集

近畿大学医学部附属病院では、
“患者・家族参加の医療安全”を目指し、
医療安全サポーターを募集いたします！

内容としては、御希望に応じて

- 1) アンケート活動への参加！
- 2) スタッフとの話し合いに参加！
- 3) 院内パトロールへの参加体験！など
を企画しています。

近大病院ファンの皆さん、近大病院を変えたいと
お考えの皆さん、ぜひ、気軽にお声掛けください！

連絡方法は：

- 1) 2階コンシェルジュにおいでください
- 2) 医療安全対策室 072-366-0221（内線3148）
医療安全対策課 072-366-0221（内線2192）
まで、お電話下さい。
“サポーター参加希望です！”とお申し出ください。

医療安全対策室代表 辰巳 陽一

小児科

当科は、南大阪地域における小児医療中核病院として、病める子どもが笑顔を取り戻せるよう、医局員一丸となって努力しております。具体的には下記のような診療を中心に活動しております。

1. 難治性腎疾患、およびネフローゼ症候群の治療と慢性腎不全の管理
2. 先天性心疾患の治療・管理、川崎病の急性期・心合併症の治療・管理、小児不整脈の管理・アブレーション
3. ハイリスク新生児の治療・管理（NICU部）
4. 小児白血病・悪性腫瘍の治療、造血幹細胞移植
5. 小児糖尿病、内分泌疾患の診断・治療・管理
6. てんかん、神経・筋疾患の治療・管理、発達障害への評価・支援

7. ハイリスク児へのワクチン接種

8. 小児救急医療への参画（南河内小児南部広域小児急病診療システム）

また、院内には羽曳野養護学校の院内学級があり、小児病棟には病棟保育士とChild life specialistを置くことで、長期入院が必要な子どもたちへの学習の継続、闘病意欲の亢進、心身のケア、退院後のスムーズな日常生活への復帰を支援しています。研究面では、上記の各診療グループごとに大学院生を中心に診断、病態解析、新規治療の開発についての研究を行い、常に新しい情報の発信に努めております。

（文責：坂田 尚己）



各診療科の紹介

■ 外科学系

放射線診断科

当科は、病院の中央放射線部やPET分子イメージング部で、画像診断や画像応用低侵襲性治療（インターベンショナル・ラジオロジー、IVR）を担当しています。

画像診断は、胸部や腹部のレントゲン検査などの一般的な画像検査から、CT、MRI、マンモグラフィー、ラジオアイソトープ（RI）やPETなどの特殊画像検査まで、放射線診断専門医・核医学専門医が中心となって世界最高水準の診断装置を用いて行っております。画像を用いて病気を見つけ、病気の鑑別診断や病気の進行度、治療効果判定などを行い、その情報を各診療科の先生方に伝えることによって、患者さまの診療に貢献しております。

画像応用低侵襲性治療（インターベンショナル・ラジオロジー、IVR）では、肝細胞がん、動静脈奇形、動脈瘤、消化管出血などの血管内カテー

テル治療から、膿瘍や胆管系の病気などの非血管系の治療まで、院内の各診療科からの依頼や地域の医療施設からの依頼を受けています。

研究面では、腫瘍性病変の描出能を向上させるためのCT、MRIの撮像技術の開発や、太い針を使って侵襲的に組織を取ること無しに、CTによって組織内の脂肪や鉄、カルシウムなどの含有物を定量する技術の開発、心臓病変や大腸病変を非侵襲的に3次元で評価するシステムの開発を行っています。また、PETやMRIによって、認知症を非常に早期に診断する検査法の研究も行っています。

放射線科医・診療放射線技師・看護師・事務などが密に協力し、患者さまに、最高の医療を、より安全に、より負担なく受けていただけるように努力しています。

（文責：村上 卓道）



公衆衛生学教室

公衆衛生学を担当する私たちは内科や外科の先生方とは違って、病院で患者さまとお会いすることはありません。私たちは、患者さまの病気を治して社会復帰を目指す治療医学ではなく、病気を予防して、そもそも患者にならないための対策を研究しています。

私たちの主な研究テーマは骨粗鬆（しょう）症とそれによる骨折の予防対策です。骨粗鬆症は骨のキメが粗くなって鬆（す）が入ってしまう病気です。一般に、骨の強さは骨密度という尺度で表されます。骨密度は女性の場合閉経後大きく低下し、男女とも高齢期で低下します。その低下に伴って、骨折が増加します。骨折の中でも大腿骨

近位部（太ももの付け根）骨折と椎体（背骨）骨折は寝た切りにつながるばかりか、死亡のリスクも上げる重大な骨折です。これらを予防するためには、私たちの研究から、牛乳・乳製品からしっかりとカルシウムを摂ること、習慣的に運動をすること、適正な体重を維持すること、喫煙しないこと、1日30g以上のアルコール摂取（ビール中瓶1本、日本酒1合）をしないこと、納豆を毎日食べること等が大切であることがわかっています。こういった知識を普及し、誰もが高齢になっても元気に生活できることを目指して、今後も研究を進めてまいります。

（文責：伊木 雅之）



■ 検査部だより ～採血から報告までの流れ～

今回は、採血させていただいた血液が、どのような流れで検査が行われ、検査結果が報告されているのかを紹介いたします。

1. 採血と採血管

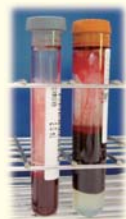
検査に必要な量を採血させていただき、検査の内容に応じた様々な試験管（採血管）に血液を入れていきます。



様々な採血管

2. 前処理（遠心分離作業）

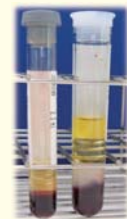
赤血球や白血球の数を調べる検査（血球算定）や糖尿病の検査（HbA1c）は採血管をそのまま機械にセットし測定しますが、多くの検査は遠心分離機（1分間に約3,000回転のスピード）で5分間処理し、得られた血清を用いて検査を行います。



採血管を
遠心機の中へ



黄色く見える
液体が血清です



3. 測定・分析

検査の内容に応じた様々な最新の自動分析装置で検査が行われます。検査内容で測定時間は異なりますが、大体15分から30分の時間が必要です。また、尿中の成分や白血球の分類は専用装置での分析に加え、それぞれ専門の臨床検査技師が顕微鏡で観察を行っています。



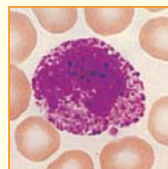
コレステロールや中性脂肪など約40種類（40項目）の検査に使用している日立生化学自動分析装置



HbA1c 検査用
東ソー G9



自動免疫測定装置
富士レビオ Presto II



白血球の顕微鏡写真（左から）
リンパ球、好中球、単球、好塩基球
形・大きさ・染色性等から専門の検査技師が顕微鏡で観察し鑑別します

4. 検査結果報告

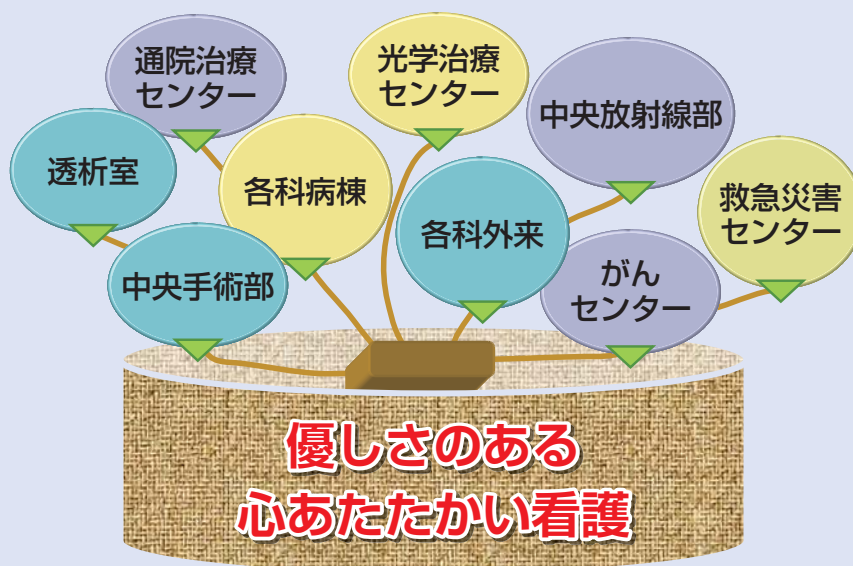
自動分析装置と接続されたコンピューターで、患者さまごとに管理された前回数値や過去数値との比較、極端に高い数値、低い数値の確認などを行い、精度の保証された検査データを電子カルテに送信しています。

（文責：中江 健市）

■ 看護部だより

看護師は、各科病棟、救急災害センター、中央手術部、各科外来、中央放射線部、透析室、がんセンター、通院治療センター、光学治療センターにおいて、患者さまによりよい看護の提供に努めております。

今回は、100病棟を紹介いたします。



病棟の紹介 100病棟

100病棟は、循環器内科・麻酔科の混合病棟です。看護スタッフは、看護師24名、診療補助員6名、病棟クーク3名の33名です。

患者さまに、安全で安心できる看護が提供できるよう、医師・他職種、そして地域を支える方々と連携しながら頑張っています。

<看護長からの一言>

スタッフみんなが「心をひとつ」にして、患者さまやご家族の気持ちに寄り添うことができる

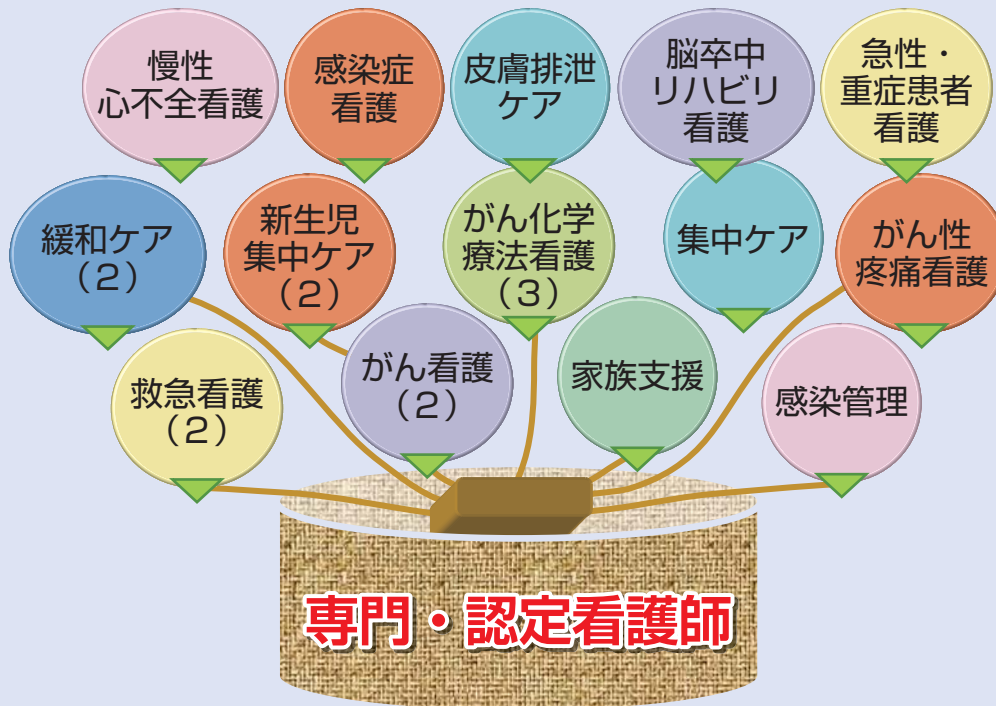
「心あたたかい」看護の実践を目指していきたいと思います。
(文責：福林 夏代)



■ 看護部だより

当院には、スペシャリストナース（専門看護師）5名、
エキスパートナース（認定看護師）15名が
それぞれの分野の役割を果たすべく日々活動しております。

今回は、慢性心不全看護認定看護師を紹介いたします。



慢性心不全看護認定看護師の紹介

心臓は各臓器が元気に働けるように、豊富な酸素を含んだ血液を全身に送る「ポンプ」の役割があります。慢性心不全とは、高血圧を含む全ての心疾患に罹患した事により、ポンプ機能が低下し、各臓器が欲しい血液量を供給できずに、生活に支障を来した状態であると言われています。超高齢社会と言われる現代、心疾患の罹患率は上昇傾向にある中で、患者さまのQOLを保った状態で生活できるようなお手伝いがしたいと考え、慢性心不全看護認定看護師になりました。

現在私は循環器内科病棟に所属し、「あと〇年は生きたいな」「孫の世話をするのが生きがいなんや」「子どもが幼く、仕事を辞めるわけにはいかない」などの患者さまの望みを果たす為には、どういう行動を取れば良いかという目標を患者さまと共に考え、患者さまや家族、医療者がチーム

となってその目標達成に向けて取り組めるように活動しています。入院中のみならず退院してからも、患者さまが目標達成に向けて行動できるように、地域の方々とも連携をとり、急性期から慢性期まで患者さまが感じる苦痛を最小限にできるような活動を行っていききたいと思います。

（文責：加藤 恵子）



ほいくだよい

5月9日、57病棟でお楽しみ会が開催されました。大阪府立羽曳野支援学校近畿大学医学部附属病院分教室（以下分教室）の子ども達のトーンチャイムの演奏や、研修医によるダンス、看護師・保育士・ボランティアによるビンゴ大会、最後にはリラックマ(?)からの風船プレゼントもあり、お土産いっぱいの楽しい1日となりました。



会場は大盛況!



病室からもテレビで参加



怖い!?

5月30日、今年も歯科衛生士さんによるはみがき教室が開かれました。検査薬で歯を赤くして、磨き残しのチェックをしてもらいました。最初は「めんどくさい」と嫌がっていたお兄ちゃん達も赤くなった歯を見て大はしゃぎでした。みんな一生懸命、正しい歯の磨き方を習っていました。保護者の方々からも入院中の歯磨きや虫歯について質問が出ていました。



正しい磨き方を勉強中



うわっ! 舌まで真っ赤!



ちゃんと磨けているかな?



病室でも見てもらったよ

7月7日の七夕の日には岸和田市音楽団の方々が小児病棟の子ども達のためにコンサートを開いてくださいました。アンパンマンや嵐など、知っている曲が流れると子ども達は歌詞を口ずさんでいました。初めて見る楽器、初めて聞く大合奏に驚きながらもみんな夢中になっていました。会場に来られなかった子ども達のために、演奏会後は病室の前で木琴のミニコンサートがあり、響き渡る音色に病棟中があたたかい雰囲気になりました。日曜日のイベントだったので、親子で楽しむ姿も見られ、素敵な七夕になりました。



素敵な演奏に親子で夢中



家族みんなで参加



お部屋でも演奏会!

8月8日は夏祭りでした。今年のテーマはディズニー。お祭りの前にパレードが始まり、子ども達のテンションも高まりました。看護師・ボランティア・保育士によるダンスに拍手喝采でした。その後、出店がたくさん並び、ミッキーのチケットを持ってヨーヨーや風船をもらったり、的当てやくじ引きなどのお店を楽しみました。

(文責：保育士 京極 恵)



はい、ポーズ



さあ、パレードが始まるよ!



可愛いダンスにみんな夢中



風船どうぞ



看護師さんが
お店屋さん



初めてのヨーヨー釣り



何が当たったかな?

※写真は保護者の了承を得て掲載しています。

卒業生の

今

当院は「教育病院として、人に愛され、信頼され、尊敬される医療人を育成します。」を基本方針の1つとし、医療機関としての役割も担っています。

大学・病院で研鑽され、現在、各方面でご活躍されている卒業生の先生をご紹介します。第4回は昭和59年卒で、河内長野市で開業されている福田さとり先生です。



福田 さとり 先生



昭和59年に近畿大学医学部を卒業しました福田さとりです。私が通学していた頃、近大医学部のまわりは緑がいっぱいで鳥がさえずり、本当にのどかな所でした。卒業後、近大眼科学教室に入局してご指導いただき眼科専門医になることができました。3人の子供達を育てながら仕事を続け、平成20年に近大病院から車で15分程の河内長野警察署の裏でふくだ眼科を開業し、現在にいたっています。手術設備はありませんが、私の手作りのフラワーアレンジメントを飾りアロマの香りがする小さくて可愛い診療所です。検査機器は最新のものを入れて、白内障、緑内障、黄斑疾患の早期発見早期治療につとめています。ドライアイ、アレルギー性結膜炎にも力をいれています。

「目も心も明るく元気に」が私のモットーなので、患者さまに目だけでなく心まで明るく元気になっていただけるよう、丁寧に優しく心をこめて診察しています。主人の福田昌彦（昭和58年卒）が卒業以来ずっと近大病院眼科に勤務しており、当院で手術が必要な患者さまは主人が近大病院で手術させていただいています。手術の結果は手術した日に家で聞けるので凄く安心できます。主人が専門ではない疾患はそれぞれの専門の先生方をお願いしていて大変ありがたく思っています。

近大医学部は小さい時から医者になりたかった私の夢を叶えてくれただけでなく、結婚相手もみつけてくれました。私の弟（昭和62年卒、井神仁）も私の娘（平成23年卒、福田ひとみ）も近大医学部の卒業生です。近大医学部と近大病院はこの広報誌の名前通り、私達家族、私達姉弟にとっても大切な「きずな」です。これからも近大の名前を汚さぬよう精進し、近大病院眼科関連クリニックとして地域の患者さまと近大病院のきずなになれるよう頑張りたいと思っています。

ふくだ眼科

2F
河内長野警察署ウラ
(林本耳鼻咽喉科の上)



診療時間	月	火	水	木	金	土
9:30 ~ 12:30	○	○	○	○	○	○
15:00 ~ 18:00	○	/	○	○	/	/

木曜日は福田昌彦先生の診察日です。

連携病院だより



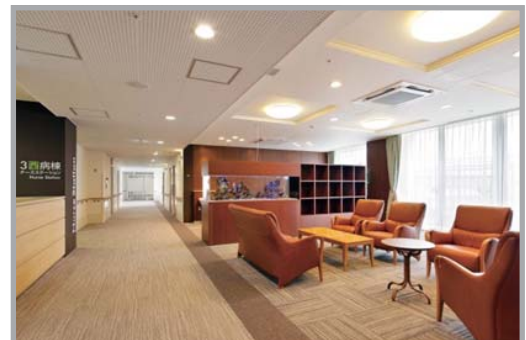
当院に受診いただいている患者さまの多くは近隣の医療機関からの紹介でお越しいただいています。また専門的な治療が終了したり、ある程度病状が落ち着けば、紹介元の医療機関に紹介させていただいたり、継続して入院が必要であれば病状に応じた医療機関に転院していただいています。患者さまに必要な医療を適切な医療機関で受けていただけるよう緊密な連携を行っています。

大阪狭山市の榎本病院は17診療科と199病床を備え、「心のかよった医療で社会に奉仕する」をモットーとして診療に当たっております。平成20年には大腿骨頸部骨折などの整形外科疾患や脳卒中などの脳神経外科疾患等の患者さまに集中してリハビリを行っていただける回復リハビリテーション病棟や、本年にはがん等の患者さまが苦痛を緩和し、その人らしい生活が送れる援助を行う緩和ケア病棟を開設されるなど、地域社会や連携医療機関・施設等のニーズに応じた医療を提供されています。

榎本病院は当院と同じ大阪狭山市に所在し、医師をはじめ医療スタッフの交流もあり、平成24年度は榎本病院から当院へ420名の患者さまをご紹介いただきました。また当院からも病状の落ち着いた患者さまの入院及び外来の継続治療や、共通の治療計画を用いた脳卒中患者さまのリハビリテーション目的での転院などで564名の患者さまをご紹介を行っています。



3F 緩和ケア病棟



緩和ケア病棟談話室

★ 榎本病院からのコメント ★

当院には近畿大学医学部附属病院から多くの非常勤医が診療に携わっていただいています。

貴院との連携により、整形外科・脳神経外科疾患の回復期リハビリテーション患者さまや近年、腫瘍内科・緩和ケア科からの患者さまが多数紹介入院されております。念願の緩和ケア病棟も今年7月オープンしました。地域の患者さまやがん診療連携拠点病院の要望にお応えすべく、これまで以上に職員一同努力して参る所存です。



医療法人 榎本会 榎本病院

住所 大阪府大阪狭山市東葉葵木4丁目1151
 TEL 072-366-1818
 FAX 072-367-3974
 URL <http://hospital.kashimoto.or.jp>
 E-mail: kasimoto@k7.dion.ne.jp

■ 大阪狭山市の名所めぐり 〈亀の甲〉

地名は、土地に刻まれた歴史です。私たちがふだん接する田畑の一枚ごとにも小字地名があります。

金剛駅からバスや車で本院へ通院する多くの方は、狭山池通りと国道310号が交わる付近にある地名「亀の甲」をご存じだと思います。

交差点やバス停あるいは荻荊木地区の集落名として親しまれている「亀の甲」という地名は、狭山池へ南西側から注ぎ込む三津屋川の流路をはさんで、①「亀の甲」交差点の東部から南部にかけての川の東南部一帯（荻荊木一・三・四丁目）と、②川の河口北部（池之原二・三丁目）、という二か所に分布する小字地名「亀ノ甲」にちなみます。

ユニークな地名であり、交通量の多い交差点名になっているので、南大阪では比較的良好に知られています。

小字「亀ノ甲」という土地は、もともと川や谷やくぼ地に囲まれた文字どおり亀の甲羅のような乾燥した台地で、水の便が悪く明治の初めごろまでは畑地として利用されていました。江戸時代の絵地図「狭山池改修控絵図」には、「字亀甲山」と記す六角形の中島を描いてあるので、その狭山池に浮かぶ中島の形状に由来したとも考えられています。

（寄稿：大阪狭山市教育委員会事務局 吉井 克信）



「亀の甲」交差点の^{こどうきょう}跨道橋設置前の景観



「亀の甲」バス停（荻荊木二丁目）



「亀の甲」交差点（荻荊木一・三丁目）景観

さやま検定

『さやま検定』とは、大阪狭山市の文化・歴史・現在の状況などの知識を問うご当地検定です。

古事記や日本書紀にも登場し、現存する国内最古のダム形式のため池として有名な「狭山池」を有する大阪狭山市への理解を深め、地域を好きになってもらおうと、市民らでつくる「狭山池まつり実行委員会」が主催するご当地検定です。

得点に応じて、狭山博士～5級までの認定級が設けられ、合格者には認定証が送られます。

過去の問題を紹介しますので挑戦してください。

1

大阪狭山市と境界線で接していない市はどれですか。

- A 河内長野市
- B 和泉市
- C 富田林市

6

最近まで、だんじり曳行の間に行われていた「にわか」は、次のどのような芸能ですか。

- A 浪曲
- B 漫才
- C 落語

2

大阪府立狭山池博物館の設計者はだれですか。

- A 安藤忠雄
- B 丹下健三
- C 黒川記章

7

大阪狭山市の特産物は、次のどれですか。

- A ぶどう
- B 桃
- C りんご

3

明治4年(1871年)以後、明治14年(1881年)の大阪府編入までの間、現在の大阪狭山市域は、次のどこに含まれていましたか。

- A 丹南県
- B 吉見県
- C 堺県

8

屋根つき多目的スポーツ広場で、ゲートボールコートが2つあるのは、どの施設ですか。

- A 池尻体育館
- B 南青少年運動広場
- C ふれあいスポーツ広場

4

昭和45年(1970年)の本市の人口は19,198人でした。平成24年(2012年)現在、本市の人口は、昭和45年の人口のおよそ何倍ですか。

- A 2倍
- B 3倍
- C 4倍

9

大阪狭山市が、和歌山県日高川町(旧美山村)と友好都市提携をした契機は何ですか。

- A 「桜の名所」
- B 「水の郷百選」
- C 「熊野へ向かう道」

5

大阪狭山市に、国の指定を受けている重要文化財は何点ありますか。

- A 6点
- B 1点
- C 0点

10

大阪狭山市のマスコット「さやりん」は何をモチーフにしていますか。

- A 竜神と桜
- B 大蛇とつつじ
- C 鹿と仏像

患者支援センターのご案内



患者さまの療養生活にまつわる様々なことに対応する総合相談窓口として、他機関や地域そして社会との連携の架け橋となるのが患者支援センターです。

患者さま・ご家族・地域の開業医の先生や医療機関、介護施設や介護事業所の方々そして院内のスタッフからのご相談やご依頼をお引き受け致します。

患者さまとの信頼関係を大切にして受診される皆さまの権利を守っていきたいと考えております。

医療相談

- ・医療費制度・費用に関する相談
 - ・公費負担・労災・交通事故等の手続き
 - ・苦情 等
- (患者様相談窓口併設)
(肝疾患相談支援センター併設)

福祉相談

- ・医療費等経済的な問題
- ・社会保険・社会福祉制度について
- ・心理的問題
- ・社会復帰 等

療養支援

- ・在宅での看護ケアの継続
- ・介護保険の申請やサービスの調整
- ・訪問診療医や転院先の選定
- ・カンファレンス開催 等

医療連携

- ・診療の予約
- ・かかりつけ医選定
- ・セカンドオピニオン 等



受付時間

月～金 9:00～17:00
土 9:00～12:00

患者支援センターの場所





院内および敷地内は**全面禁煙**です。

入院される患者さまには、禁煙に関する同意書を記入していただいております。

皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

《個人情報保護について》

個人情報保護について近畿大学医学部附属病院では患者さまの情報の取り扱いに万全の体制で取り組んでいます。

1. 個人情報の利用目的について当院では、患者さまの個人情報を診療・教育などの目的で利用させていただくことがございます。これら以外の目的で利用させていただく必要が生じた場合には、改めて患者さまからの同意をいただくことになっておりますのでご安心ください。
2. 当院では、患者さまの個人情報の開示・訂正・利用停止等につきましても、「個人情報の保護に関する法律」の規定に従って進めております。

各診療科のご案内

3 F	産婦人科、小児科、眼科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、疼痛制御センター（麻酔科）、形成外科、歯科口腔外科、東洋医学診療所
2 F	循環器内科、内分泌・代謝・糖尿病内科、消化器内科、血液・膠原病内科、腎臓内科、神経内科、腫瘍内科、呼吸器・アレルギー内科、メンタルヘルス科、外科（上部消化管、下部消化管、肝胆膵）、外科（肺）、外科（乳腺内分泌）、外科（小児）、脳神経外科、心臓血管外科、心療内科、漢方診療科、緩和ケア科
1 F	整形外科、放射線治療科、放射線診断科、リハビリテーション科

外来受付時間

平 日	土 曜	休 診 日
予約外又は紹介状をお持ちでない患者さま 8時30分～11時30分	8時30分～11時00分	日曜日・祝日 創立記念日（11月5日） 年末年始（12月29日～1月3日）
紹介状をお持ちの患者さま 8時30分～14時00分		

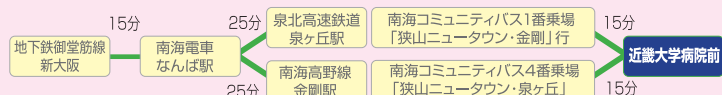
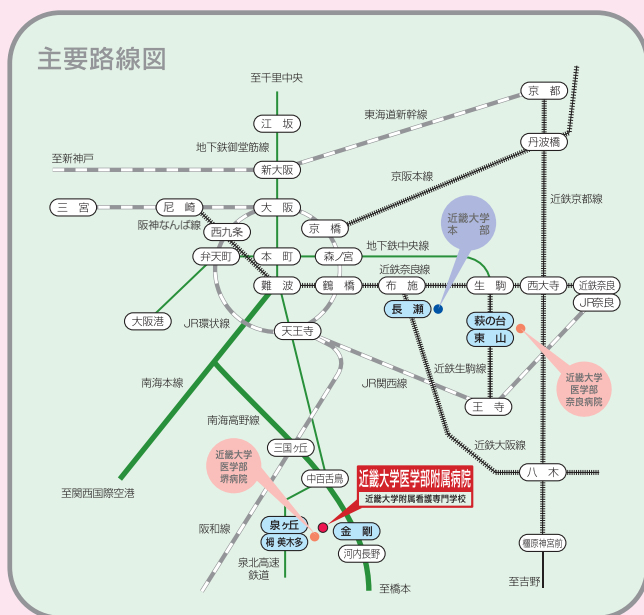
※患者さまが当院での治療等を必要とされる場合、紹介医からの紹介状が原則となっておりますので、なるべく当院宛の診療情報提供書（紹介状）を持参頂きますようお願いいたします。

※初診時に紹介状をお持ちでない方には、保険外併用療養費として5,250円（消費税込み）をご負担頂きます。

※診療科によっては、完全予約制や休診日もございますので、詳しくは各診療科にお問い合わせください。

近畿大学医学部附属病院

ア ク セ ス



お 知 ら せ

広報誌「きずな」のバックナンバーは、病院ホームページよりご覧いただけます。
アンケートもホームページ上で実施しておりますので、ぜひご協力お願いいたします。

アドレス <http://www.med.kindai.ac.jp/huzoku/>

編集後記

近畿大学医学部 附属病院 広報誌「きずな Vol.11」をお届けします。発刊から5年以上経過しました。患者さまから紙面の充実化について、おほめのお言葉もいただきました。委員会一同励みになっております。ひとえに皆さまのおかげと心より感謝申し上げます。

これからも、皆さまの貴重なご意見をお聞かせいただき、患者さまに役立つ内容を提供できるよう努めていく所存です。今後とも、皆さまとのつながりを大事にする「きずな」をご愛読のほど、宜しくお願い申し上げます。

発行日／平成25年12月1日 発行場所／近畿大学医学部附属病院
編集／広報誌発行委員会 大磯 直毅

〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377番地の2
TEL (072) 366-0221 (代表)
FAX (072) 366-0206

ホームページ <http://www.med.kindai.ac.jp/huzoku/>